



国道231号に待望の道の駅 躍進する



「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、北海道内には122駅が登録され（5月末現在）、多くの方に様々な形で利用されて、今では道の駅がない車での移動は考えられません。

平成27年1月、国土交通省では、地方創生の核となる道の駅を重点的に応援することとし、このときに選定された道内の道の駅の一つが、石狩「あいろーど厚田」です。

連休前の4月27日に待望のオープンを果たした当駅では、とっておきの厚田や浜益を体感できるルート案内情報を手に入れたり、地元産の海の幸や畑の幸に舌鼓を打ち、あるいは、日本遺産（文化庁）に認定された北前船などについて、2階の歴史展示コーナーで、詳しく学ぶこともできます。さらに、災害発生時には緊急避難所としても大いに期待されます。

地域の力を結集し、「あいろーど厚田」は進化を続けています。



石狩「あいろーど厚田」



目次：5月の連休中は、石狩市の公認キャラクターさけ太郎、さけ子もお出迎え

裏表紙：海沿いを走る国道231号はライダーやサイクリストにも人気

私は魚や米をもらって歩く“わらしべ長者”なんです

厚田に引っ越してきて、昨年から地域の皆さんに集まってもらい、埋もれていた宝探しを行ってきました。重点道の駅として、野菜直売だけではなく、地元の方が輝き、また訪れる方にも喜んで滞在してもらえる仕掛けを作っている最中です。例えば、地元の方が、「真冬の2月に厚田に来る人なんかいない」と言うのを、「春にしん料理（厚田にしん御膳）と雪の絶叫テーマパーク」ツアーをつくって、にしん漬けづくりや、スノーモービル、タイヤチューブ滑りを行ったところ、「初めて体験した」「大人でも雪遊びは楽しい」などと、とても好評でした。でも、一番嬉しいのは、お客様だけでなく漁師さんをはじめ地元の人たちが喜んでくれたこと。まだまだ発掘したいものがたくさんあります。2年後には、ここ道の駅で着地型観光商品の販売を行う計画です。この道の駅を拠点に地域が潤い、お客様が満足し、私どもも共に成長していくよう、活動してまいりたいと思います。



株式会社あい風 代表取締役
吉田 和彦 さん